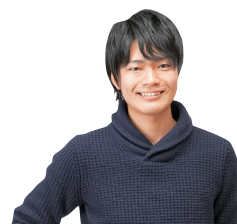


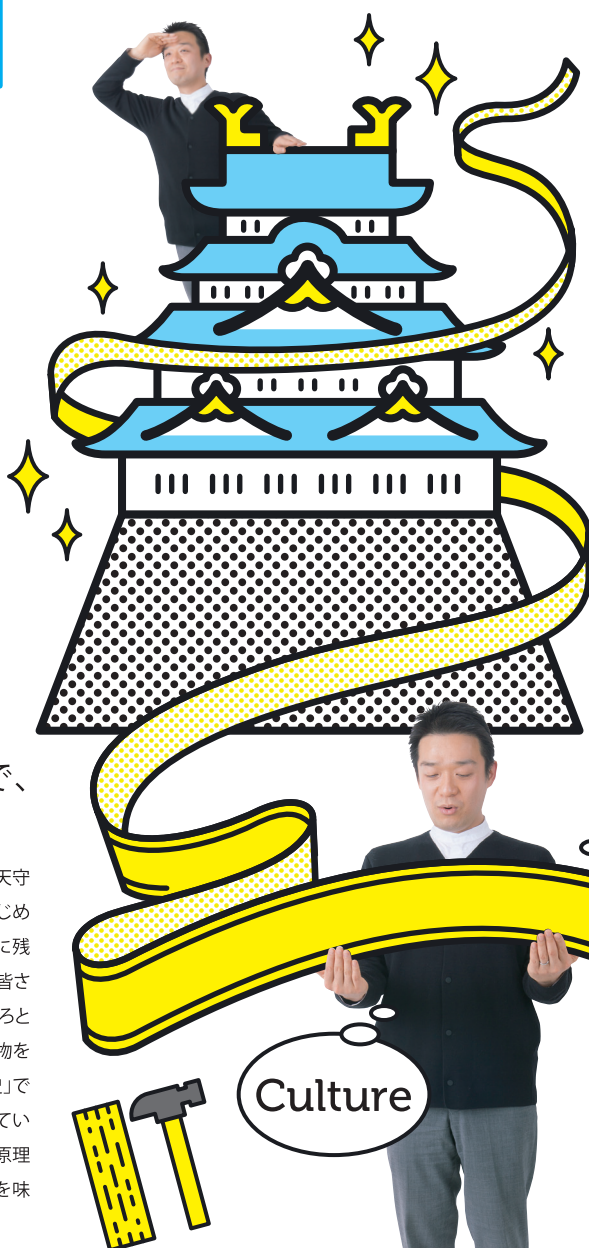
Q 名古屋城を木造で復元したら見どころは？



建築物を取り巻く文化や物語までを見てほしい

建築技術史を知ること、もっとおもしろくなる！

名古屋市民の大きな関心事として名古屋城天守閣の木造復元がありますが、名古屋城をはじめとする城郭、寺院、神社など、日本には後世に残したい素晴らしい古建築が数々存在します。皆さんもきっと、全国の名だたる建築物をいろいろと見たことがあると思います。そのような建築物を見る際に、知っておきたいのが「建築技術史」です。建物の構造にはどんな意味が込められているのか、なぜその形になっているのか、その原理を探すと、古い建物の謎を解くような感覚を味わうことができ、より楽しめますよ。



現存しない部分は頭の中で思い描いてみて。

私が行っているのは、実際の建物を計測したり、構造や装飾を観察して設計方法や造り方を探ること。現存しないものであれば、大工が建築技術やデザインの要点などを書き残した史料から読み解いていきます。なかには部材の寸法や指示しか書かれていないものもあるので、文字情報のみから図面を書き起こすことも。時代によっては解読困難な言葉が並んでいたり、十分な史料が揃わないこともあります。それを埋める作業が難しくもあり、醍醐味の部分。また空間や内部装飾から読み取れる宗教の教義や理念も非常に興味深いものです。僧侶が儀式について書いた記録が残っていて、当時の様子やインテリアも思い描くことができます。こうしていろいろな角度から建築物を眺めることが、文化力の向上につながり、本質的な文化財の保存につながるのではないのでしょうか。

私の学生時代

史料を読み漁り、調査に明け暮れた学生時代。

大学院の博士課程の時は、神社、お寺、民家、近代建築などあらゆる建物の調査に出かけていました。写真は、石川県にある江戸時代のお寺を調査している様子。ほかにも建物や遺跡も巡って、視野を広げた学生時代でした。



PROFILE

米澤 貴紀 先生

「父が建築士をしていたこと、鎌倉の近くに住んでいたのが古い建物が身近だったこともあり、自然と建築に興味を持った」という先生。大学時に授業で聞いた曼荼羅の話から、設計ではなく、建築の奥行きに魅了され研究の道へ。

